

誰からも頼られる園芸療法士を目指して

花き装飾コース

1. はじめに

国際園芸アカデミーに入学し、1年生の後期に園芸福祉の授業を受講し、園芸療法について興味を持ち始めた。そこで、花に関わる仕事と介護の仕事の2つを両立することが出来る園芸療法士の仕事を知り、「園芸療法士」を目指そうと思った。インターンシップⅢで医療法人白水会白川病院に行き、内定をいただき、卒業後介護士兼園芸療法士として働くこととなった。卒業制作で、園芸療法の企画を考え、白川病院でやらせていただくことになった。園芸療法の企画を考えるために、学内外の花育講座のアシスタントや生涯学習の指導者となり、知識や経験が積んだ。2つの企画を考え、白川病院にてデイケアセンターの利用者さんを対象とし、園芸療法の活動を行った。

2. 今まで行った園芸福祉活動

授業1 高齢者キットを使った高齢者体験（園芸福祉実習の授業）

授業2 ローズマリーのリース制作（園芸福祉実習の授業）

活動1 花育 長島小学校（花育講座 アシスタント）

活動2 花育 「ぎふグリーン・ライフ推進員」育成講座（アシスタント）

活動3 花育 生涯学習（指導者）

活動4 秋のリース制作（インターンシップⅢ アシスタント）

3. 白川病院で実施

（1）フォトフレームの装飾

目的・花材の感触の違いを楽しんでもらう。ex. ふわふわのラグラスやポアプランツ

・手と頭をたくさん使ってもらう。

シミュレーション（15分）



- ・肘のサポーターや手袋をしているため細かい作業がとても大変で難しい。
→何をサポートして欲しいのかを聞く。
- ・花の名前を覚えてもらうことが難しいことが分かった。
→身近な花から説明し、興味を持ってもらう。
花の名前を和名にして伝える。
- ・机に敷いた新聞は花と同化して見にくかった。
→茶紙など無地のものを使用する。

実施（30分）



- ・事前準備で花材を目の前に置くと、話を聞いてもらえず進めてしまう。
→花材を置くタイミングを考える。
- ・ドライフラワーとプリザーブドフラワーの違いの説明ができなかった。
→簡単で分かりやすい言葉で最初の方に説明する。
- ・利用者さんの手が強張ってつかみにくかったので、アジサイなどのパーツをもっと小さくする。
→花材を3cm以上にする。

(2) クリスマスリースの装飾

目的・季節を感じてもらう。

- ・手を前後に動かずことでリハビリ要素になる。

シミュレーション (20 分) 	・ハスの向きがどちらを上にしたらいいのか分からなかった。 →向きもデザインになることを伝え、制作する。 ・視覚障がい体験ゴーグルをしているため、ポンポンの色が実物と違って見えた。 →花材選びの時にゴーグルをしてからしっかり色が見えるか確認して選ぶ。 ・最後にオーナメントが外れていないか最終確認することが出来た。 →必ず確認の許可を取ってから行う。
実施 (40 分) 	・ハスをリースの鈴のようなデザインになるように付けている方がいた。 →新しいデザインに気付かされた。 ・土台の段ボールが弱く体で固定すると折れてしまう。 →段ボールを二重にするなど頑丈にして使用する。 ・利用者さんに作業することは伝わっていたが、説明の仕方が難しかった。 →例えば、毛糸の巻き方やボンドの付け方など実践しながら教える。

4. 全体を通じて

学校で行ったシミュレーション通りに進めることは難しかったが、2回ともハプニングが起きることなくスムーズに出来た。白川病院で実施した企画は介護レベルが低い利用者さんを対象として行ったので、私たちのサポート方法に差は感じられなかった。1回目の企画では、簡単な企画だったので、制作時間が30分で終わってしまい2回目の企画では、難易度を少し上げた制作時間が40分の企画を考えて利用者さんの人数を増やし2つのグループに分け行った。そして、制作した作品を「一週間デイケアセンター内の壁に飾ってから、持って帰ってもらいます。」と伝えると、利用者さんたちがとても素敵な笑顔になり喜んでもらったのがとてもうれしかった。

5. まとめ

卒業研究では、時間が短かったり少人数で行える園芸療法ばかりだったので、今後、制作時間を長くしたり、利用者みんなで一つの作品を作り上げたり、昔から親しまれている植物を使用したり、白川町は自然が豊かでデイケアセンターの周りに様々な植物があるので、周りの植物を活用したりなどいろいろな企画を考えたいと思った。そして、自分が体験していない老年者特有の身体機能の衰えについて十分な理解と共感を持ったうえで園芸療法の企画を考えたいと思った。将来は「誰からも頼られる園芸療法士」を目指して頑張りたい。